

# 令和6年度 伝統建築技能研修(前期) 受講者募集要項

令和 5年 12月 1日

選定保存技術保存団体・一般社団法人  
日本伝統建築技術保存会

〒578-0903  
大阪府東大阪市今米 1丁目 4-38 川中邸 内  
Tel 072-966-2323 ・ Fax 072-966-2325

## 【 講座概要 】

1. 講座名称 令和6年度 伝統建築技能研修(前期)
2. 定員 20 名
3. 主催者 一般社団法人 日本伝統建築技術保存会

### 4. 講座開催の趣旨

文化財保存修理等の伝統建築工事に従事する木工技能者を対象に、講義・演習・見学・実習の講座を国庫の助成を受けて開催し、伝統木工技術の保存に必要な知識および技術の習得と資質の向上を図る。

### 5. 受講者への対応

- (1) 研修の全課程を履修後、修了試験を行い、その合格者には認定証を交付する。
- (2) 認定者名簿を作成し、文化庁ほか文化財建造物関連機関へ提出する。
- (3) 認定者は、本会会報に掲載し、社会へ公開する。 また希望者はホームページにも掲載する。

### 6. 会場

東日本会場 - 八王子セミナーハウス(公財・大学セミナーハウス)  
(〒192-0372 東京都八王子市下柚木1987-1)

7. 受講料 30,000円

### 8. 受講資格

- (1) 今後も継続して文化財建造物の修理等の伝統建築工事に従事することを希望する者。
- (2) 年齢25歳以上(令和6年4月1日現在)で、当会の会員(正・準会員)であり、  
かつ下記 ①～⑥のいずれかを満たすもの。

①	大工経験が6年以上、かつ文化財建造物修理を含む伝統建築の大工経験が5年以上の者	
②	1級、2級、木造建築士	免許登録後、文化財建造物修理を含む伝統建築工事の大工経験が3年以上の者
③	1級、2級建築施工管理技士	
④	1級建築大工技能士	
⑤	(公財)文化財建造物保存技術協会による木工技能認定者	
⑥	本会が特別に、上記 ①、②、③、④と同等以上の知識及び技能を有すると認める者	

9. 受講申込と受講の認否通知

- (1) 受講希望者は、令和6年1月15日(月)から4月1日(月)までに受講申込書、伝統建築大工の経歴書を本会事務局宛に郵送のこと。(申込書がエクセルによるオリジナルデータの場合は電子申請も可とする)

宛先 : 〒578-0903 大阪府東大阪市今米1-4-38 川中邸内  
一般社団法人 日本伝統建築技術保存会 事務局

- (2) 記入漏れ、押印漏れ等、不備のある申請は受理しない。
- (3) 受講資格を証する修了証、認定証、免許証等の写しを添付すること。
- (4) 封筒に「前期研修受講申込書 在中」と表記のこと。
- (5) 申請書類に基づき、受講の認否審査を行う。
- (6) 受講の認否通知は5月末日までに申込者宛に送付する。

10. 研修日

研修は二日連続、年間5回、計10日間(予定)

研修日	回	年月日	回	年月日
	1	令和 6 年 7 月 14 日 (日) 7 月 15 日 (月・祝)	4	令和 6 年 11 月 23 日 (土) 11 月 24 日 (日)
2	令和 6 年 8 月 31 日 (土) 9 月 1 日 (日)	5	令和 7 年 1 月 12 日 (日) 1 月 13 日 (月・祝)	
3	令和 6 年 9 月 22 日 (日) 9 月 23 日 (月・祝)			

11. 欠席した場合の対処、対応

- (1) 欠席が座学で、16時限以内の場合
  - ① 欠席した授業のビデオで自宅研修をし、時限毎のレポートを提出をすること。
  - ② レポートの評価が良好であれば、出席したものとみなす。
- (2) 欠席が座学で、16時限を超える場合
  - ① 次回以降の講座に欠席した科目の受講を申込み、補完すること。
  - ② 受講料は別に定める。
- (3) 欠席科目が実技の場合
  - ① 次回以降の講座に該当科目の受講を申込み、全時限を受講すること。
  - ② 受講料は別に定める。

12. 認定試験

- (1) 合否の判定は、別に定める認定規定による。
- (2) 試験の結果は個人宛に通知する。
- (3) 不合格者には再受験を認める。 再受験料は別に定める。

13. その他

- (1) 都合により、日程等に変更を生じる場合がある。
- (2) 聴講生制度があります。詳細は事務局までお問い合わせください。

科目	内容	講師	時限数
開講式	開講式 講座説明、自己紹介		1
文化財修理概論	文化財修理の歴史と概要		2
日本建築史 I	建築様式の変遷		8
構造力学	応力伝達、力学的考え方の基本 荷重、外力等の算定 ピン・ラーメン構造		5
伝統木造建築論	・木の話 ・文化財修理用材の話 ・中世の手法が残る軒、平面に直角がない 城郭の復元 ・法隆寺昭和の大修理記録		3
伝統大工技術 I	継手 仕口の働き、種類、変遷、目の錯覚(隅 延び等) 古代人の知恵		6
伝統技術 (左官)	仕上の種類と材料の配合		3
実践規矩術 I	隅木の理論と作図		24
古建築修理 I	文化財建造物等古建築修理の方法・要点		3
木割と設計・積算 I	木造建築の各部の比率 社寺の設計法、工 事量、工事費算出の仕方		7
見学研修	古建築の見学		6
修了試験	大工としての常識、学習の理解度の判定		2
計			70

【 日程、時限割 】

	第 1 日	第 2 日
1 時限		8:30 - 9:20
2		9:30 - 10:20
3	10:30 - 11:20	10:30 - 11:20
4	11:30 - 12:20	11:30 - 12:20
昼食		
5	13:10 - 14:00	13:10 - 14:00
6	14:10 - 15:00	14:10 - 15:00
7	15:10 - 16:00	
8	16:10 - 17:00	
9	17:10 - 18:00	
10	18:10 - 19:00	